

韓国ドラマ チュモン（朱蒙）にはまった

2006年に製作された史劇、81時間の長編だが一気に見終わるほどでした。

紀元前108年、漢の侵略により古朝鮮が滅亡、国を失った人々は奴隷として漢で強制労働させられていた。チュモンは漢とたたかい多くの奴隷や流民をすくうため、高句麗（国）の建設に取り組んだ。

冬のソナタで韓流ブームとなった韓国ドラマはいまだ高い人気を保っている。

そこには、今、日本で失われつつある家族愛や、人間愛がある。何より、国が文化として俳優の養成や撮影会社に援助をしていることでしょう。

映画館でもスクリーンクォーター制で自国の映画を年間5分の1（73日）は上映する義務があります。

国を挙げて文化に力をいれているのです。

日本は高い技術を誇りながらアメリカの映画が主流。

ここにも、アメリカいいなりの姿が見えてきます。

韓国ドラマ見たい人はいろいろあります、連絡してください。

後援会員のひろば

M・H

日本共産党大演説会 小池 晃参議院議員来る

◆ 2月10日（日）

◆ 午後2時～4時

◆ 名古屋市公会堂（鶴舞）



私達もお話します

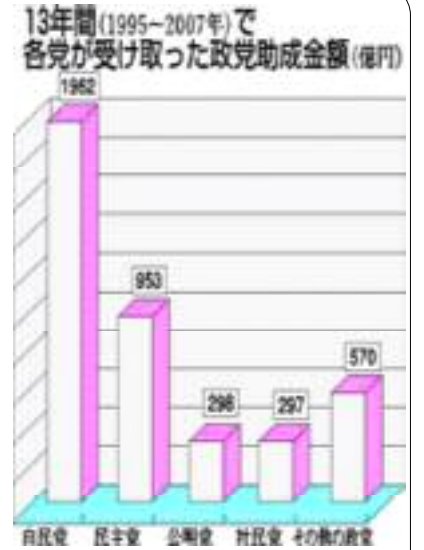
国民の声が生きる政治への転換

国会の混乱どう見るか、お誘い合わせの上ぜひお出かけください

政党助成 13年間 4080億円

福祉予算削りながら
自公民 使途全面公開棚上げ

赤ちゃんからお年寄りまで国民1人250円の税金が充てられる政党助成金の2007年の最終分（79億7800万円）が、自民、民主、公明、社民、国民新、新党日本の各党に交付されました（20日）。この結果、1995年の制度実施から13年間の支給総額は4080億円に達しました。「財政再建」の名で国民に負担増・福祉切り捨てを押し付けながら、日本共産党以外の政党が労せず税金を山分けしています。



自民、民主、公明、社民などの賛成で21日に成立した「改正」政治資金規正法。国民の税金を原資としている政党助成金の使途を全面公開するのは当然なのに、今回の「改正」では、全面公開の対象から除外されました。実務担当者の協議では賛成したのに、土壇場で自民党が先送りしたのです。

一方、24日に閣議決定された08年度予算案では、今年と同じ319億4000万円が計上されました。

政府は、ひとり親家庭に支給される生活保護費の母子加算（15歳以下）を今年度から09年度にかけて廃止しようとしています。その削減額は今年度で約50億円。公明党が今年受け取った政党助成金28億600万円の1.7倍にすぎません。母子加算削減は3年間では180億円が見込まれます。政党助成金の一部を回せば廃止しなくて済みます。

小泉内閣は04年度から3年かけて生活保護の老齢加算を廃止し、生活保護を受けている高齢者から総額370億円（3年間）の収入を奪いました。319億円にのぼる政党助成金をやめれば、老齢加算の復活も可能になります。

政党助成金は、いったん政党に渡れば、あとは何に使おうと勝手放題の“つかみ金”です。今月7日には、自民党の武部勤元幹事長の二男が経営する会社に対し、同党本部が受け取っていた政党助成金から翻訳料として30万円が支払われていたことが明らかになりました。

政党助成金 1994年の「政治改革」関連法で小選挙区制とセットで導入。受け取りを請求した政党に、国政選挙の議席数と得票数に応じて年4回(4月、7月、10月、12月)に分けて配られます。日本共産党は、支持してもいない政党に事実上の献金を強制する仕組みで思想・信条の自由を定めた憲法の趣旨に反するとして、政党助成金制度の廃止を一貫して主張し、制度導入以来受け取りを拒否しています。

2007年12月30日(日)「しんぶん赤旗」